



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：雨森 正記
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀 1-4-8 日栄ビル 703A
あゆみコーポレーション内
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055
E-mail jpca@a-youme.jp
HP primary-care.or.jp/primarycare-
linki/

ニュースレター No.38 (2022.12)

特集 1：近畿の話題（今回は、京都・大阪からです）

外国人患者さんと薬剤師 ～これからの関わり方を考える～

鈴木 渉太 (京都大学 SPH 健康情報学 研究生 / 京都市)

京都市内で、薬局での外国人患者対応について研究活動が続けてきました。この原稿を執筆している頃、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の水際対策が緩和され、ひさしぶりに個人の外国人旅行客の入国 (2022 年 10 月 11 日) が解禁されました。街中でも徐々に旅行鞆を手にした外国人の姿を目にする機会も増えてきました。

活動を始めた 2016 年頃は、4 年後の東京オリンピック開催に向けて、日本中ありとあらゆる場所で外国人とのかかわり方、受入れ体制整備の必要性が叫ばれていました。薬局でも同様で、年々増加する外国人観光客へどのように対応するのかは重要な課題でした。積極的に外国人患者さんを診療する病院では、院内で薬を渡すことも少なからずあるようです。しかし、日本では医薬分業制度をとっているため、通常は地域の薬局にも院外処方箋を持った外国人患者さんがやってきます。多くの薬局では、インターネット環境や翻訳機といったツールが整備されておらず、気軽に医療通訳を頼ることもできません。そのため、薬剤師自身の語学力やスマートフォンの翻訳機能を頼りに対応している状況です。薬剤師として勤務していた薬局でも、(処方箋らしき) 紙を手にした外国人がお店の近くに見える度、スタッフは警戒、誰が話しかけるかの相談が始まるのが常でした。

多言語対応可能な薬局を正確に調べる術はまだありません。店舗によっては、英語や中国語を話せる薬剤師もいますが、いつ・どこでといった制限がかかります。こういった問題解決に向けて、多言語とイラストを併記した薬剤の説明、薬局で薬を用意するまでの流れやジェネリック医薬品の解説資料を作成して、各薬局で最低限の対応はできるように、外国人患者さんへの対応力向上を目指した OMOTENASHI Project に取組んでいます。COVID-19 期間中には、帰国せずに日本で滞在を続ける在留外国人コミュニティでの医療情報へのアクセスも問題視されました。短期的な旅行者だけでなく、中長期的な在留者を含め地域に暮らす外国人との関りは今度も重要な課題です。

2020 年初頭から、人流抑制により入国者数は激減状態が続いていましたが、いよいよ再開の時が迫ってきたように思います。外国人にとっても住みやすい地域を目指す上で、薬局や薬剤師がどういった役割を果たせるのか、これからも考えていきたいと思います。



COVID-19 期間中に作成した Web ページ (京都大学 SPH 薬局情報グループ)

外国人対応 For non-Japanese

COVID-19 多言語相談窓口 まとめ
Support Information



郵送府県別に、日本語が苦手な方向けの相談窓口情報を調べ、まとめました。
困っている方がいたら、この連絡先を使って助けてあげてください。



<https://www.kyoto-sph-pharmacy.com/covid-19-for-non-japanese>

私たちのグラン・ジユテ ～大医総診、ぴよんと跳ぶ～

三澤 美和 (大阪医科薬科大学病院 総合診療科/高槻市)

2022年7月、大阪医科薬科大学病院は建設中だった新棟が完成し、大きな救命救急フロアが開設されました。それまでは古い建物の(大学病院とは思えないほどの...)狭いスペースでこじんまり各科が交代で救急医療をやっていたのですが、今回ワンフロアに救命救急センターと総合診療科外来が併設され、総合診療科には待望の5つの外来診察室ができました。外来ブースが多くあることで、研修医の初診外来研修がスムーズに進み、看護師の患者教育やリエゾン専門看護師のカウンセリングも個室でゆっくり行えるようになります。

これまで総合診療科は大学の中でも小さなTEAMでした。入院されるのは複雑な病態や不明熱、psycho-socialな要素が大きい方が多く、ローテートの研修医に総合診療科の「らしさ」を伝えることがなかなか困難でしたし、果たす役割や専門性、収支、患者人数や病床稼働率などどれをとっても、病院全体に「総合診療科の存在感」を示すことは容易ではなかった時間が続きました。私が赴任して7年、鈴木先生が8年。長い我慢の時間だったと思います。この間、600人を超える学生の授業で「総合診療・家庭医療」を伝え、2017年終わりに医学生と一緒に立ち上げたプライマリ・ケア勉強会(PISCO)は2023年2月に第50回目の勉強会を迎えますが、地味に地道に前を向いて歩んできたと思います。

2022年7月、状況は一変しました。新しい総合診療科外来開設と同時に、救命救急センターの一次二次救急の初期対応及び入院対応を総合診療科が幅広く引き受けることになったのです。一次二次救急の相当数を担当することにより、commonな疾患での入院が増え、担当する入院患者は6月までの3倍ほどになりました。感染症、めまいや頭痛、腸炎等のいわゆる市中病院救急に近い部分を担うことになると、病院の中で総合診療科が一定の存在感を示すことができていることが感じられるようになったのです。私自身もこの数か月、病院の「超幹部」との直接の話し合いが驚くほど増え、交渉や相談、顔の見える関係がめまぐるしく広がっていくのを感じます。研修医たちも「総合診療科がいろんな病態を見ていて研修が充実している」と感じてくれるようになりました。もちろん、私たちの日当直数もぐんと増えて忙しくなりましたが...人は適応するものですね。3倍になった患者数にてんやわんやしていた7月に比べると随分うまく病棟管理もできるようになってきました。日々めざすのは定時の仕事終了です。

何より病院のあちこちから「総合診療科って今まで何をしているところかよくわからなかったけど、今はすごく頑張ってくれている」という声が聞こえてくるようになったことは、驚きでもあり、臓器毎に細分化された大学病院で生き残るといふことの意味を見た気がします。「何をしているかわからない」、厳しい言葉のように思えますが総合診療科のあり方を考えさせられる言葉でした。

「グラン・ジユテ grand jeté」は私の古くからの家庭医仲間である大切な友人が教えてくれた言葉で、バレエで高く跳躍する場面を指すそうです。バレエのあの「ぴよん」と大きく跳ぶ瞬間です。人生には「あの瞬間は跳んだな」と思える出会いや出来事があると思いますが、おそらく私たち総合診療科は大学病院という難しい環境でも、この夏ぴよんと跳んだのだと思います。蒔いた種がいつか芽を出し、蕾をつけ、花が咲く。育てた学生も、研修医も、そして地道に歩んできた時間も蕾くらいにはなったでしょうか。

大学で存在感を示すためにはやっぱり患者数と収益、つまり数字が大事な世界なのだと痛感します。うまくいって思うように思えるときほど、浮き足だつことなく慎重に謙虚にならないと。本当に大切な総合診療らしい臨床をぴよんぴよん跳びながらこれからも伝えていきたいです。一緒に近畿の総合診療・家庭医療をどんどん盛り上げていきましょう。

いつでも「大医総診」に遊びにきてください。お茶目な教授とにぎやかなメンバーがお待ちしています。

(写真は2022年11月 鈴木先生の誕生日を祝って研修医たちと撮ったものです)

<https://gm-osaka-med.jp/>



報告：2022 年度オンライン代議員会開催

長 哲太郎 (ファミリークリニックなごみ/大阪市)

11月20日に近畿地方会内で現地とオンラインのハイブリッド代議員会が開催されました。現地参加29名、オンライン参加22名で、久しぶりの対面開催でもあり、非常に温かな雰囲気だったと思います。内容としましては、草場理事長の近畿ブロックに対する期待に関するビデオメッセージを皮切りに、第36回近畿地方会についての情報も公開されました。完全オンラインで行う予定で、大島民旗大会長、川島篤志実行委員長、稲岡雄太実行副委員長を中心とした実行委員で、魅力的な大会にしていきたい旨紹介されました。さらに、プログラム責任者協議会の再開について提案され、近畿の代表者として石丸直人先生が選出されました。その他にも、各担当の方から重要なプロジェクトについて報告されました。詳しくは当日の議事録をご参照ください。

<https://docs.google.com/document/d/1BZCeRO2zxQkPpCBtY0GeNf-XqEugGTtblsXIZMIjt9Q/edit>

地域の話：第8回 滋賀支部主催 在宅医療多職種キャリアアップ研究会

佐々木 隆史 (医療生協こうせい駅前診療所/湖南市)

去る2022年10月10日に上記研究会を開催しました。今年のテーマは【居場所づくりとつながる在宅医療、ソーシャルワークを身につける】でした。三年ぶりの現地開催で医師14名、医学生5名はじめ、現地44名、WEB22名、合計66名の参加でした。

第一部 【居場所創り、在宅医療、就労・健康づくり】

☆居場所を作り、看取りもする小規模多機能の理事長、☆働く場所と健康のスーパー創りを中心となって進めたケアマネジャー、☆作業所・介護施設・カフェとつないだ農福連携の介護事業所専務、☆診療所の隣にスポーツジムを作ったジム所長医師からの4人のお話とその後のディスカッション。

居場所づくりの活動を始めて20年から1年くらいまで、様々なフェイズがありました。歴史が長いところでは、次の展開・事業継続の問題を解決していくことの大切さ・理念継続、新しいところはいかに作り上げるか、それが事業であったり、地域の協働であったり。事業であれば採算ベースと今後の発展性に重きを置いて、どのように軌道に乗せていくかというビジョンの確立。地域の協働であれば、ビジョンをみなと共有しながら一つ一つ前に進んでいく努力。皆がファーストペンギンとしてスタートした苦労も話してもらったが、意外と周囲が協力してくれたと、ひとの魅力も大切と感じました。何かを起こすには、ひと・もの・かねが必要と言われますが、対象者・協力者どちらとも、ひとを大事にすることが成功の一つでしょうか。『何か』が欲しいという名詞で止まらずに、『何かのためにこうしよう』という動詞で終わることにより、次のアクションが見えてくる。人と行動でつながっていく、これが居場所づくりのソーシャルワークの一つと感じました。

第二部は、当研究会の見どころである 【滋賀県史上最大級の体験コーナー】

★マスク下の若返り口腔体操；歯科衛生士さん ★MetaQuestを使ったリハ：作業療法士さん ★ICT疲労姿勢改善プログラム：理学療法士さん ★災害にも強いシ・栄養食品：管理栄養士さん

第三部 【スモールグループディスカッション】

「普段接する機会が少ないであろう多職種の人と、日常業務や互いの職種について会話」することができました。なかなかパネリストのように実現することは難しいかもしれませんが、自事業所でない他職種とフィジカルに意見を交わすことが久しぶりの人が多く、感想を交流してお互いの意見に触発してもらい、自分の中に変化を起こしてもらうことを目標としました。



その他

●近畿ブロックのレジェンドたちのライフヒストリー&感動秘話

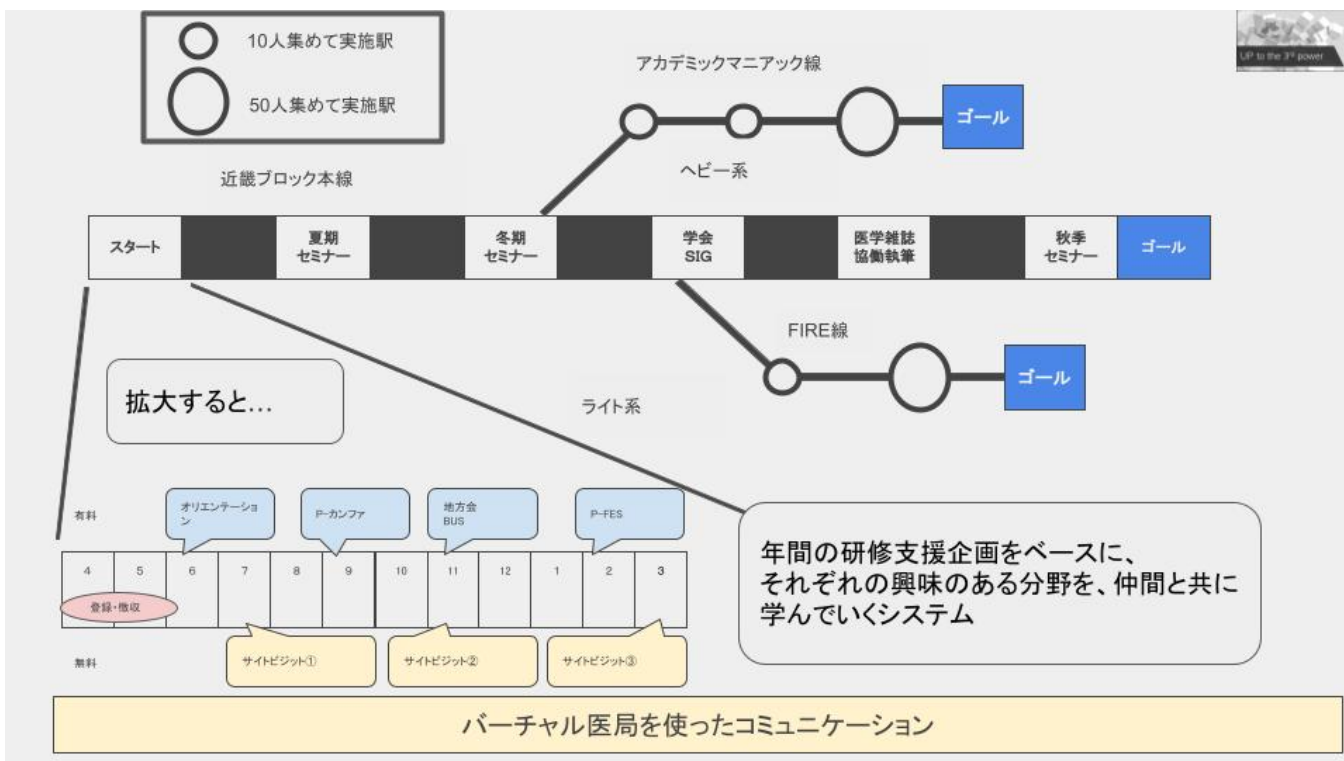
- # 1 石丸裕康 先生
- # 2 木戸友幸 先生
- # 3 中山（畔田）明子 先生
- # 4 雨森正記 先生
- # 5 鈴木富雄 先生
- # 6 松井善典 先生
- # 7 竹中裕昭 先生
- # 8 三澤美和 先生
- # 9 専門研修をはじめたばかりの3人の専攻医



<https://podcasts.apple.com/gb/podcast/legend-of-gp-in-kpca/id1583573369>

をゲストに迎え、順調にポッドキャスト収録が進んでいます。
ぜひ一度お聞きください。

●近畿ブロックの研修ブラッシュアッププロジェクト ～up to the 3rd power～



up to the 3rd power という、専攻医の研修を近畿全体でシステムティックにサポートし、一人ぼっちの専攻医を作らないプロジェクトを始めました。現在、月一回のミーティングを行っています。

2022年度は、6、7月頃に登録を行い、年間の専攻医のための教育イベントについて、通年参加できるシステムを考えています。(上図参照)ただ、まだまだバーチャル医局も含めて認知度が低い状況です。お近くの専攻医の方々にぜひ、お声掛けをお願いいたします。

ミーティングは、基本的には第四火曜日（第五がある場合は第五）の21時から行っています。

プロジェクトに興味がある、関わりたいという方、ドシドシ連絡ください。

登録先はこちらです。<https://forms.gle/kiVioQdp5CA86jTN6>

ニュースレター編集委員大募集！！

朝倉 健太郎 (大福診療所/桜井市)

近畿ブロックニュースレター編集部では、近畿ブロック支部や各府県支部の取り組み、会員のみなさまの近況などを中心に編集作業に取り組んできました。3ヶ月毎、年4回の発行を行っており、本誌2022年秋号は37号にあたります。今回より、薬剤師、竹内あずさ先生にも編集部の一員としてご協力いただくことになりました。竹内先生、みなさま、どうぞよろしくお願いいたします！引き続き、様々な立場、役割を担っている会員のみなさまの活動を幅広く取り上げていくことができると考えております。

ご興味のある方は、編集部 kentaroasakura@gmail.com 朝倉 までご連絡下さい。

[支部からのご連絡] **ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！**

近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました！

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から)

→ 詳細は、上記ホームページをご参照願います。

ホームページ担当：梶原信之